

第 10 回審議会における審議状況について

1 中間まとめ案について

第 10 回審議会では、第 9 回審議会で出された意見を反映した「中間まとめ案」を報告し、「中間まとめ案」について、更なる議論を行った。第 10 回審議会において、委員から出された意見及び意見を踏まえた中間まとめ案への反映状況は以下のとおり。

(目次)

- ① 「～の基本的な考え方」という項目が章・節にそれぞれ記載されているので、統一されていると良い。
⇒章立てを見直し、「～の基本的な考え方」の項目を統一

(第 1 章)

- ① P. 1 前回答申から 10 年経ち社会状況が大きく変化したことに対して、新しい環境を目指すために新たな答申が必要になった旨の記載があると良い。
⇒P. 1 3, 4 段落目を修正、P. 2 4 段落目及び P. 4 6 段落目に追記
- ② P. 2 図について、本答申と魅力ある学校づくりプラン後期計画の関係性がより明確になると良い。また、最終的に学校や子どもたちに繋がっていく図があると理解がしやすい。
⇒意見を踏まえて図を修正

(第 2 章)

- ① インクルーシブ教育や教職員の働く学校としての環境整備について記載があると良い。
⇒P. 4 2 段落目を追加

(第 3 章)

- ① 資料編資料 17 及び 18 表記の向きを図と合わせたほうが見やすい。
⇒表記の向きを図に合わせるよう修正
- ② P. 12 「習熟度に応じた授業や少人数授業の展開」について、目的や成果が示せると良い。
⇒P. 12 5 段落目に追記（「学力の向上を目的に」、「学習が進む過程で生じうる理解や習熟の程度の差を小さくするや、学習をより進めていくための発展的な指導等」）

③ P. 14 及び 15 地域協議について、「地域（学びのエリア）の中の学校」という文言があっても良い。

⇒P. 15 2 段落目に追記（地域とともにある学校）

④ P. 15 iGS の「活用」という文言について、iGS は学校と協力関係にあるので、表現を見直した方が良い。

⇒P. 15 「② 地域協議」の文言を修正（連携を図る）

⑤ P. 15 及び 16 小中一貫型学校について、区のすべての学校を小中一貫型学校にしていくのではなく、通学区域や学びのエリアなどの状況を踏まえながら展開していく旨を記載しておく方が良いのではないか。

⇒P. 16 6 段落目に追記（設置可能な学校や地域を検討）

（第 4 章）

① 「1 基本的な考え方」の記載について、ソフト・ハードが混在している印象を受ける。バリアフリーやユニバーサルデザインといったハード面からインクルーシブ教育や特別支援教育といったソフト面に繋がる構成にすると良いのではないか。

⇒P. 17 2, 3 段落目を修正

② 「施設」という文言は一棟の建築整備を連想させる。学校の学習環境整備は複数棟と屋外環境を含めて、地域や市街地との境界までを全体として考えるべきなので、そのニュアンスを入れると良い。

⇒P. 17 2 段落目に追記（屋外環境等を含めた学校全体の整備）

③ 環境配慮やカーボンニュートラルに関する記載があっても良いと思う。学校環境全体が子どもたちの教材となるような整備方法がトレンドになりつつある。

⇒P. 17 2, 3 段落目に追記（エコスクールや ESD）

④ ICT 化について、子どもにとってのメリットをより多く示せると良い。

⇒P. 17 「(1) ICT 化」2 段落目に追記（子どもたちの個別最適な学びの保障と主体的で対話的な深い学びの実現に大きく寄与）

⑤ ICT 化は授業への活用や個別対応としての活用など、目的や課題に応じて変わってくるので、説明を加えられると良い。

⇒P. 18 2 段落目に追記（オンライン授業や連絡手段、様々な形で活用）

⑥ ICT 化について、教員の ICT 環境の整備について、具体的な記載があってもよいと思う。

⇒P. 18 3 段落目に追記（教員向けデジタル教科書や校務支援システムの導入など）

⑦ 特別支援教育について、不登校対策や外国人への日本語指導、ヤングケアラー等、子どもたちを取り巻く状況を多様化しているのです、それについて触れたほうがよいのではないかと。

⇒P. 19 「(4) 特別支援教育」から「(4) 子どもたちの多様性と子どもたちを取り巻く様々な環境」に修正し、不登校対策等についての記載を追加。

（第 5 章）

① 「統廃合について検討を進めるべきである」という文言はもう少し柔らかいニュアンスにしても良いのではないかと。

⇒P. 21 「1 小規模化対応」の記載を修正（統廃合について検討を進めていくことが考えられる）